



潮見公園展望台から市内方面を望む



志賀海神社



志賀海神社参道鳥居



鹿角堂



郭沫若氏記念碑(金印公園)



蒙古塚



お汐井(志賀海神社)



市営渡船「きんいん1号」



元寇の絵(蒙古塚)



金印公園の方位盤

- アクセス
- 市営渡船場「志賀島」
- 西鉄バス「志賀島」
- コース散策:約4時間



ボランティアガイドの赤尾征子さん

「漢委奴國王」と彫られた金印が見つかった場所の近くに造られた金印公園、入口の柱には「金印発光の地」と書いてあります。公園内にある、方位盤を見て、改めて志賀島・博多が中国大陸にいかに近いかを実感し、東アジアでの島の重要性を認識させられました。園内には中日友好協会の会長も勤められた郭沫若氏の碑もあり、この公園では日本と中国の交流の奥深さと、友好の原点に触れたような気がします。

そして志賀島散策のもう一つの楽しみ方が万葉の歌碑巡りです。博多湾周辺を詠んだ万葉歌は三十七首あり、そのうち二十三首が志賀島にまつわるものです。島内にはそのうち九基の碑があります。海岸沿いや丘の上、参道、小学校の校庭などにあり、どれも心打たれる歌でした。

お天気の良い日、自然を満喫し万葉の世界に思いを馳せ、ゆっくり志賀島を散策してはいかがでしょうか。

# 万葉の世界

東区(志賀島)

巻頭マップ⑩

「ちはやぶる  
鐘の岬を  
過ぎぬとも  
われは忘れじ  
志賀の皇神」  
万葉歌碑(第1号碑)

出発・ゴール地点 志賀島  
志賀島港  
志賀中学校  
志賀海神社  
志賀海神社開  
志賀島小学校  
金印公園  
蒙古塚  
弘  
大崎  
沖宮  
勝馬口  
国民休暇村

## 日中交流の原点、万葉歌碑巡り

博多湾の入口にある志賀島は、その昔「龍の都」ともいわれ、奈良時代から地名が登場する古い歴史を持つ島です。また金印発光の場所としても知られています。今回は福岡市観光案内ボランティアの赤尾征子さんに東区志賀島を案内して頂きました。

志賀島の玄関口、志賀島渡船場から正面の鳥居をくぐり真すぐ歩くと千八百年以上の歴史を持つ志賀海神社です。ここを参拝し、坂道を歩くこと約三十分、島で最も高い潮見公園展望台に到着です。ここからは白砂が続く奈多海岸や博多湾が一望でき、三六〇度の眺望が楽しめます。ここでお昼ごはんです。

展望台から西へ下ると勝馬の海岸。ここから右手に糸島半島を見ながら弘の集落を過ぎ、蒙古塚、金印公園を巡り出発点の渡船場にゴールです。次に散策中のスポットを紹介しましょう。

志賀海神社は古くから海上の神様として信仰され、今も「山ほめ祭り(十一月十五日)」など独特の神事や風習が残っています。参道の入り口や拝殿の前には海砂のお汐井が置かれ、身を清めて参拝します。境内には神功皇后にまつわる鹿の角一万本が収納された鹿角堂があります。

蒙古塚には元寇の際、ここで捕らえられ亡くなった蒙古兵士が祀られ、張作霖氏の碑もありました。

※数の多さは奈良時代の同時期に九州に赴任していた太宰府政庁の長・大伴旅人(家持の父)と筑前国守・山上憶良との交流が大きく影響しています。

「志賀山 いたくな伐りそ 荒雄らが やすかの山と 見つつ徳はむ」(山の伐採を詠める歌。今の環境問題に通じるものがあります。)